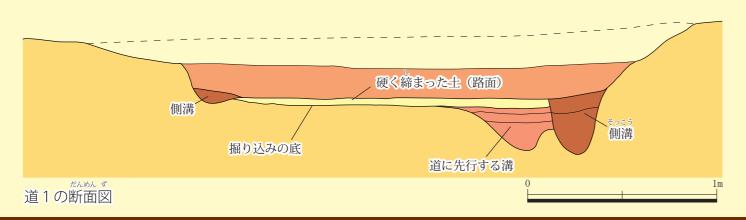
道1 (1区、北から)







熊野脇道は、本街道である熊野街道に比べ、道 。 標や石造物などの文化財が少ないうえ、開発など でその姿が失われたところも少なくありません。

今回の調査成果は、こうした熊野脇道沿いの中 世集落の姿を知る上で重要です。

調査遺跡名:野添大辻遺跡(第2次) 所 在 地:三重県度会郡大紀町野添

調査面積 : 約 1,050 m²

調査実施機関:三重県埋蔵文化財センター

調査期間 : 平成 25 年 4 月 17 日~平成 25 年 7 月 26 日 (予定)

野添大进遺跡(第2次)発掘調査現地説明会資料 ~度会郡大紀町野添~

2013.7.6 三重県埋蔵文化財センター



の そえ おおつじ みゃかり 野添大辻遺跡は、宮川右岸の台地上(標高 66m)に位置 する縄文時代から中世(鎌倉~室町時代)の集落跡です。 この台地上には、樋ノ谷遺跡(大紀町神原)や野手遺跡 (大紀町野添)など、縄文時代早~中期の遺跡が数多く所在 しています。また、遺跡のある野添地区は、宮川と宮川支 流の藤川をたどって、伊勢神宮から滝原宮、熊野へと至る 協街道「熊野脇道」(滝原道ともよばれる)が通過したとこ ろです。

昨年度に行った第1次調査では、縄文時代早期(約1万 年前)の竪穴住居や炉穴、多くの土器(押型文土器)や石 器が見つかるなど、大きな成果があがりました。

今回の調査では、主に室町時代の掘立柱建物や井戸、道 の跡などが見つかり、かつて「野副郷」と呼ばれていた中 世の村の姿が少しづつ明らかになってきました。











主な遺構の時期

縄文時代?

平安末~鎌倉時代

室町時代

江戸時代以降

路面に砂利を敷いた道(はから)

今回の調査地は第1次調査地の約70m東に位置します。この第2次調査では、掘立柱建物5棟、井戸1基、道(道路)の跡2条など、主に室町時代の遺構や遺物が見つかりました。

なかでも、南北方向の道の跡が複数確認されたことが注目されます。これは、地面を掘りくぼめ、底に砂利 や砂を敷いて路面とした切通し状の道で、道の端に排水用の側溝を設けています。これらの道は、集落内の通 行に使われるとともに、屋敷地や畑地などを区画する役割をもっていたと考えられます。

今回の発掘調査によって、遅くとも 15世紀ごろには、幹線道である熊野脇道沿いに集落を構え、そこから南北に派生する枝道によって集落内部を区画するという、現在の集落によく似た集落景観が生まれつつあったことがわかりました。なお、平安時代末から鎌倉時代の遺構や遺物が若干みられることから、上記のような集落のあり方は、さらに古くさかのぼる可能性があります。

旧熊野脇道(滝原道)

第1次 第2次

2区

1区

滝原道の一部?。(側溝か)

大きなゴミ穴(粘土採掘坑?)